

世界セレクトティブ株式オープン

<3387>

追加型投信／海外／株式
日経新聞掲載名：世界セレクト株

第5期 2024年4月25日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を除く世界の金融商品取引所上場株式等に投資し、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第5期末	基準価額	18,704円
	純資産総額	13,436百万円
第5期	騰落率	35.7%
	分配金	100円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を含めて計算したものです。

■信託期間終了日を2024年4月25日から2050年4月25日に変更しました。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

◇TKU0338720240425◇

「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- * 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- * 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期首：13,860円

期末：18,704円（分配金100円）

騰落率：35.7%（分配金込み）

基準価額の主な変動要因

海外先進国株式市況が上昇したことや、為替が円安に推移したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2023.4.26~2024.4.25)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	181円	1.127%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は16,040円です。
(投 信 会 社)	(53)	(0.330)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(124)	(0.770)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(4)	(0.027)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.008	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	182	1.136	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

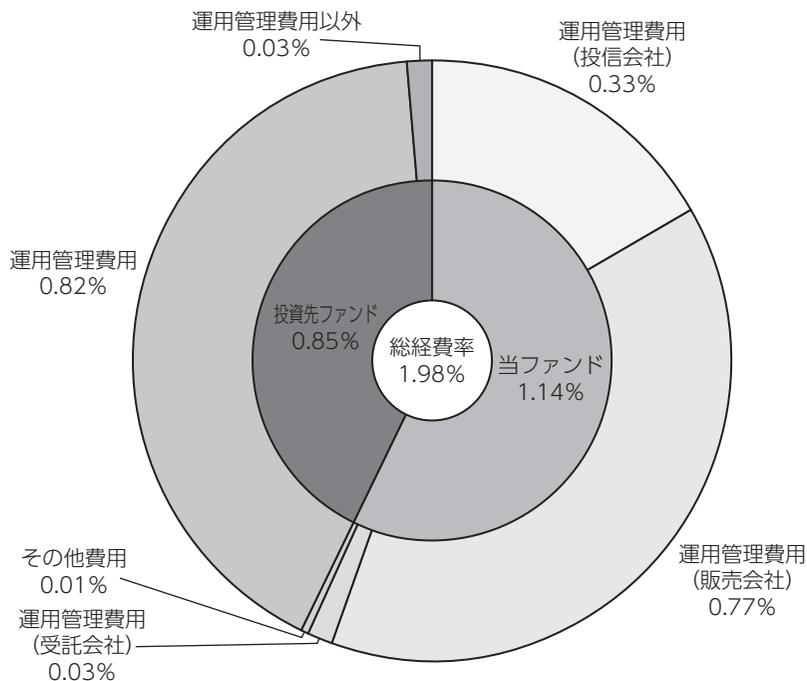
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.98%です。



総経費率 (①+②+③)	1.98%
①当ファンドの費用の比率	1.14%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.82%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

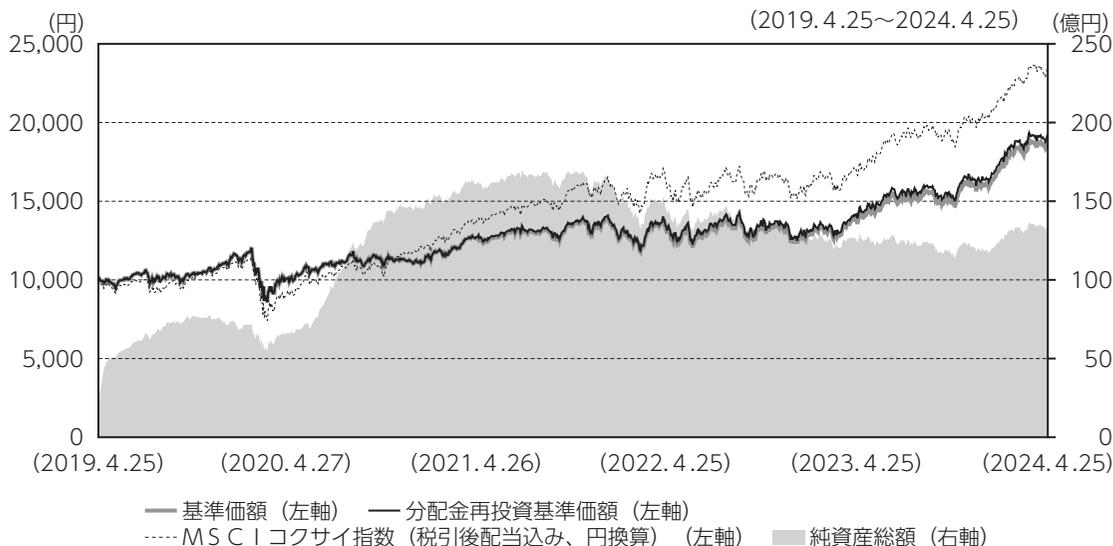
(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、2019年4月25日の基準価額をもとに指数化したものです。

*参考指数はMSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

	2019年4月17日 設定	2020年4月27日 決算日	2021年4月26日 決算日	2022年4月25日 決算日	2023年4月25日 決算日	2024年4月25日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,039	12,619	13,249	13,860	18,704
分配金 (税込み) (円)	—	0	100	100	100	100
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	0.4	26.7	5.8	5.4	35.7
M S C I コクサイ指数 (税引後配当込み、円換算) 騰落率 (%)	—	△10.2	52.0	19.6	3.8	38.3
純資産総額 (百万円)	746	6,582	16,085	14,535	12,580	13,436

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) M S C I コクサイ指数 (税引後配当込み、円換算) は、M S C I Inc. (「M S C I」) の承諾を得て、M S C I コクサイ指数 (税引後配当込み、米ドルベース) をもとに大和アセットマネジメントが円換算したものです。M S C I コクサイ指数 (税引後配当込み、米ドルベース) は、M S C I が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はM S C I に帰属します。またM S C I は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、M S C I によって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、M S C I は本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。 (<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>)

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は最近で知り得るデータを使用しております。

投資環境について

(2023. 4. 26~2024. 4. 25)

■海外先進国株式市況

海外先進国株式市況は上昇しました（米ドルベース）。

海外先進国株式市況は、当作成期首より、米国の地方銀行の経営不安や債務上限問題への懸念が上値を抑えた一方で、予想を上回る米国企業決算の発表が好感され、底堅い展開となりました。2023年5月下旬からは、AI（人工知能）関連の半導体企業の強気見通しや米国債務上限問題の解決、インフレ率の鈍化などが好感され、上昇しました。8月以降は、米国国債の増発やFRB（米国連邦準備制度理事会）の政策金利見通しの引き上げ、政府機関の閉鎖懸念などによる長期金利の大幅な上昇、景気の先行き不透明感や企業業績の伸びの鈍化、パレスチナ情勢の悪化などが嫌気され、10月末にかけて下落しました。11月以降は、欧米のインフレ率が予想以上に鈍化し金利が低下したことや、FRB議長が将来の利下げについての議論を始めたことを受けて利下げ観測が高まったことなどが好感され、上昇しました。2024年1月以降も、欧米でインフレ率の鈍化傾向が継続したことやAI関連の半導体関連企業が良好な決算を発表したことなどが好感され、上昇基調が続きました。しかし、米国の利下げ開始の後ずれ観測や半導体関連企業の予想を下回る決算発表などを受け、4月は上値を抑えられ、やや反落して当作成期末を迎えました。

■為替相場

米ドル円為替相場は上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、米国経済指標の上振れなどを背景に米国金利が上昇するに連れて上昇基調となりました。2023年7月には、日本の政府要人等による円安けん制発言や日銀の政策運営の柔軟化決定を受け、米ドルは対円で下落（円高）しましたが、8月以降は、米国金利が上昇した一方で日銀は緩和的な金融政策の維持を発表したことから、米ドルは対円で上昇しました。その後も、米国金利の上昇を背景に緩やかな円安基調が続きましたが、11月以降は、日銀による政策修正や米国金利の大幅な低下を受け、下落しました。2024年に入ると、米国金利の上昇や日銀による金融政策の維持などを背景に円安米ドル高に転じ、2月には、日銀の副総裁がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を維持する見通しと発言したことも加わり、円安米ドル高基調となりました。当作成期末にかけては、日銀がマイナス金利の解除など大規模な金融緩和の終了を発表したものの、他国・地域に比べて緩和的な環境が続く見通しなどから、円安基調が継続しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「MF Gグローバル株式ファンド」と「ダイワ・マネー・マザーファンド」に投資します。通常の状態では、「MF Gグローバル株式ファンド」への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※MF Gグローバル株式ファンド：アンカーMF Gグローバル株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

■MF Gグローバル株式ファンド

社会に変革をもたらすような中長期の投資テーマを発掘すると同時に、市場の大幅な下落につながる可能性のあるイベント・リスクを把握する「トップダウン分析」と、持続可能な競争優位性（エコノミック・モート）を持ち、長期的な成長が見込まれる高クオリティ企業を厳選する「ボトムアップ分析」とを効果的に融合し、ポートフォリオを構築します。

■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2023.4.26~2024.4.25)

■当ファンド

当ファンドは、「MF Gグローバル株式ファンド」と「ダイワ・マネー・マザーファンド」を投資対象ファンドとするファンド・オブ・ファンズです。当作成期の運用にあたっては、「MF Gグローバル株式ファンド」の投資比率を高位に維持しました。

■MF Gグローバル株式ファンド

ポートフォリオ全体でのリスク管理を徹底しつつ、持続可能な競争優位性（エコノミック・モート）を持ち、長期的な成長が見込まれる銘柄を厳選し、ポートフォリオを構築しました。保有する銘柄の多くは、企業の生産性向上支援やキャッシュレス社会への移行など社会のデジタル化の進展、生活に必要な商品やサービスの提供における価格決定力、あるいは各国政府が推進する脱炭素化への取り組みなどを背景としたインフラ投資の拡大というメガトレンドからの恩恵を受けた収益拡大が期待できる企業群であると考えています。

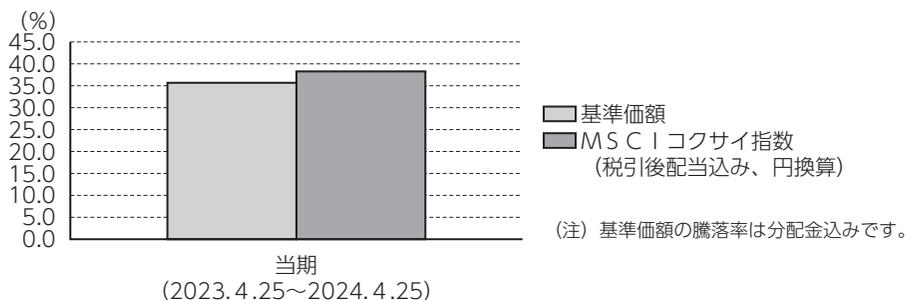
■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。参考指数は海外先進国株式市場の動向を表す代表的な指数として掲載しております。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金(税込み)は下記「分配原資の内訳(1万口当り)」の「当期分配金(税込み)」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程(1万口当り)」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■ 分配原資の内訳 (1万口当り)

項目	当 期	
	2023年4月26日 ~2024年4月25日	
当期分配金 (税込み) (円)		100
対基準価額比率 (%)		0.53
当期の収益 (円)		100
当期の収益以外 (円)		-
翌期繰越分配対象額 (円)		8,704

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

■ 収益分配金の計算過程 (1万口当り)

項目	当	期
(a) 経費控除後の配当等収益		0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓	4,815.00
(c) 収益調整金		1,437.74
(d) 分配準備積立金		2,551.66
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)		8,804.41
(f) 分配金		100.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)		8,704.41

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

「MF Gグローバル株式ファンド」と「ダイワ・マネー・マザーファンド」に投資します。通常の状態では、「MF Gグローバル株式ファンド」への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■MF Gグローバル株式ファンド

社会に変革をもたらすような中長期の投資テーマを発掘すると同時に、市場の大幅な下落につながる可能性のあるイベント・リスクを把握する「トップダウン分析」と、持続可能な競争優位性（エコノミック・モート）を持ち、長期的な成長が見込まれる高クオリティ企業を厳選する「ボトムアップ分析」とを効果的に融合し、ポートフォリオを構築します。

■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。



お知らせ

■信託期間の延長について

信託期間終了日を2024年4月25日から2050年4月25日に変更しました。

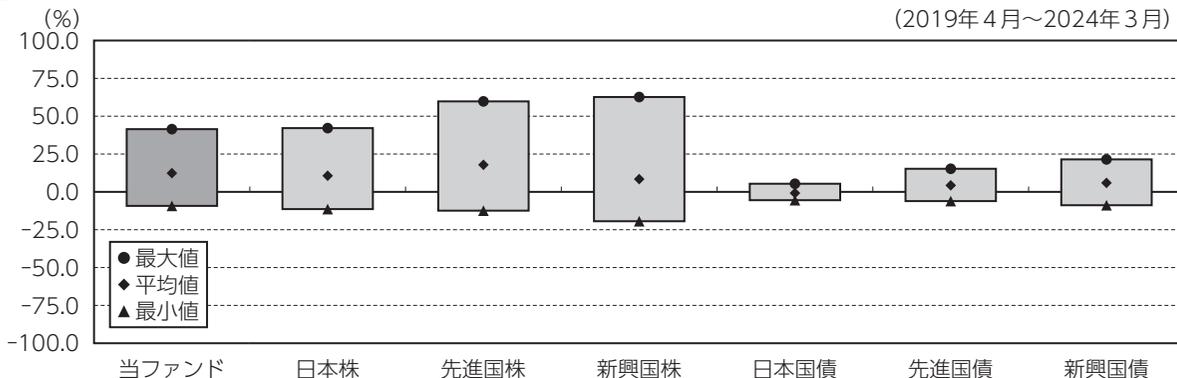


当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2019年4月17日～2050年4月25日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. アンカーMFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）（以下「MFGグローバル株式ファンド」といいます。）の受益証券 ロ. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネー・マザーファンド	本邦通貨表示の公社債
当ファンドの運用方法	<p>①主として、MFGグローバル株式ファンドの受益証券を通じて、日本を除く世界の金融商品取引所上場株式等（DR（預託証券）および不動産投資信託証券を含みます。）に投資し、信託財産の成長をめざします。</p> <p>②MFGグローバル株式ファンドの運用にあたっては、以下の方針を基本とします。</p> <p>イ. 徹底したリサーチを通じて、持続的な優位性を持つ企業の株式等に投資することで、中長期での収益獲得をめざします。</p> <p>ロ. 市場環境に応じたポートフォリオの調整や株式組入比率の抑制などにより、ファンドと世界の株式市場との連動性を一定程度以下に維持することで値下がりリスクの抑制に努めます。</p> <p>ハ. ポートフォリオ構築にあたっては、中長期での収益獲得に資すると考えられる銘柄への集中投資を行なうことを基本とします。</p> <p>③当ファンドは、MFGグローバル株式ファンドとダイワ・マネー・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、MFGグローバル株式ファンドへの投資割合を高位に維持することを基本とします。</p> <p>④MFGグローバル株式ファンドにおいて、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
マザーファンドの運用方法	<p>①わが国の公社債を中心に安定運用を行ないます。</p> <p>②邦貨建資産の組み入れにあたっては、取得時に第二位（A-2格相当）以上の短期格付であり、かつ残存期間が1年未満の短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。</p>	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	41.4	42.1	59.8	62.7	5.4	15.3	21.5
平均値	12.4	10.7	17.9	8.4	△0.8	4.3	5.9
最小値	△9.3	△11.4	△12.4	△19.4	△5.5	△6.1	△8.8

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社J.P.X総研または株式会社J.P.X総研の関連会社（以下「J.P.X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利はJ.P.Xが有します。J.P.Xは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任を負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。（<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>）●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



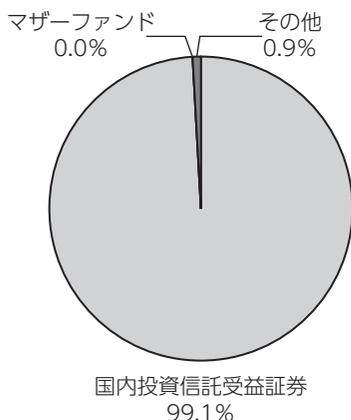
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

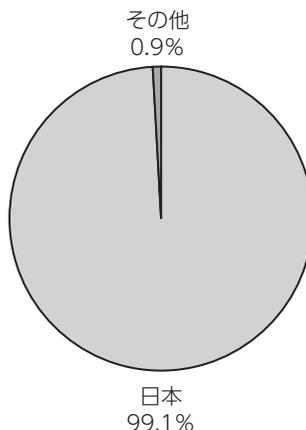
組入ファンド等

	比率
アンカーMFGグローバル株式ファンド(為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)	99.1%
ダイワ・マネー・マザーファンド	0.0
その他	0.9

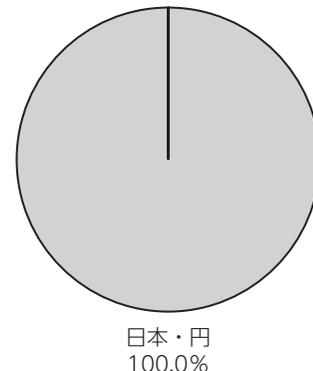
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2024年4月25日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

項目	当期末
	2024年4月25日
純資産総額	13,436,203,125円
受益権総口数	7,183,451,498口
1万口当り基準価額	18,704円

*当期中における追加設定元本額は462,985,740円、同解約元本額は2,357,002,427円です。

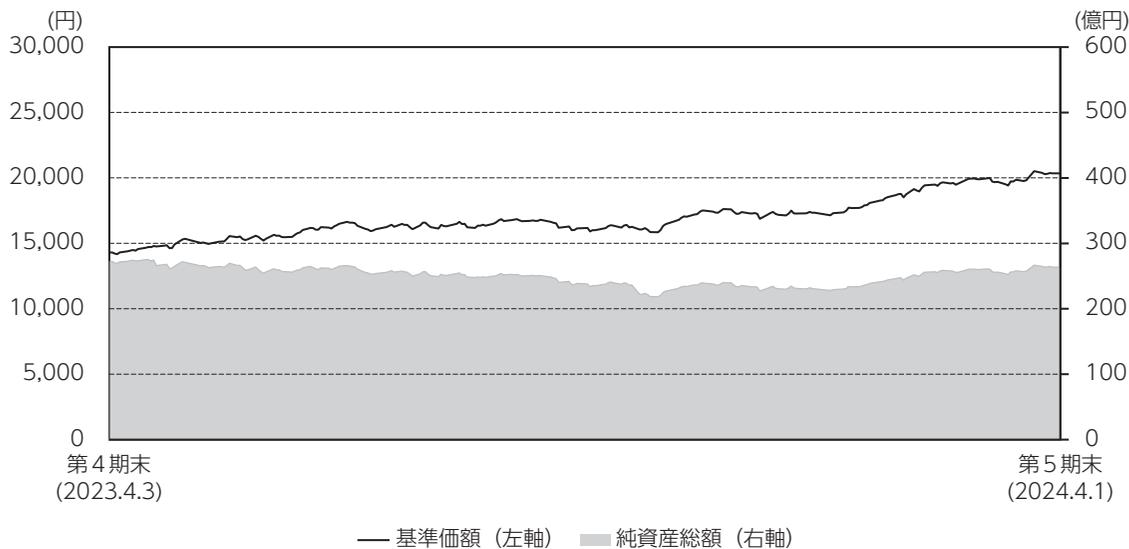
*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

組入上位ファンドの概要

◆アンカーMFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

（作成対象期間 2023年4月4日～2024年4月1日）

基準価額等の推移について



1万口当りの費用の明細

項 目	第5期		項 目 の 概 要
	(2023.4.4~2024.4.1)		
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	141円	0.823%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は17,149円です。
(投信会社)	(134)	(0.783)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(2)	(0.011)	販売会社分は、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(5)	(0.029)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 募集手数料	－	－	
(c) 売買委託手数料	2	0.014	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(2)	(0.014)	
(d) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(e) その他費用	5	0.027	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(4)	(0.024)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.003)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合 計	148	0.864	

(注1) 期中の費用(消費税がかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

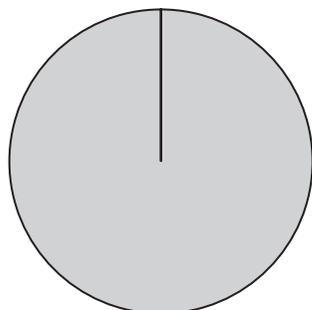
当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

	比 率
アンカーMFGグローバル株式マザーファンド	100.2%
その他	-0.2

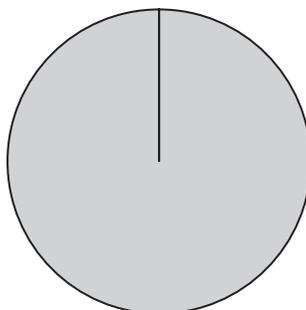
(注) 比率は第5期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

○資産別配分



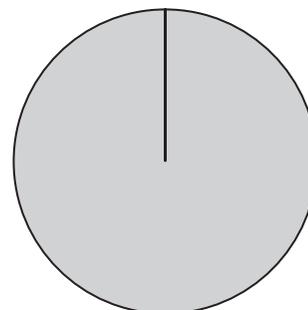
親投資信託受益証券
100.2%

○国別配分



日本
100.2%

○通貨別配分



日本・円
100.2%

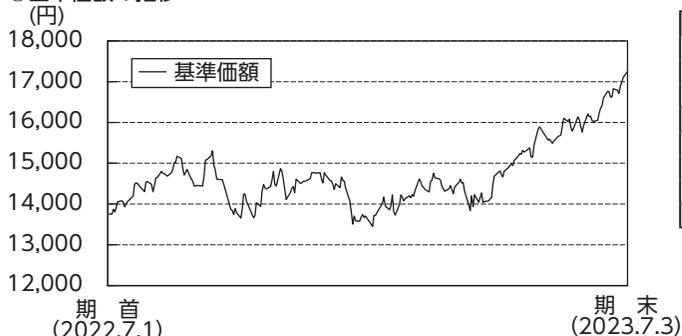
(注) 比率は第5期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

※以下のファンドはアンカーMFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）が組み入れているファンドです。

◆アンカーMFGグローバル株式マザーファンド

（作成対象期間 2022年7月2日～2023年7月3日）

○基準価額の推移



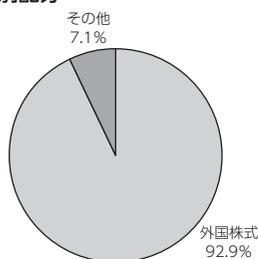
○1万口当りの費用の明細

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (株式) (投資証券)	3円 (3) (0)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	3 (3) (0)
合 計	6

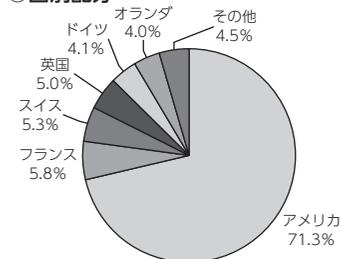
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
MICROSOFT CORP	米ドル	6.0%
AMAZON.COM INC	米ドル	5.5
LOWES COS INC	米ドル	4.3
APPLE INC	米ドル	4.1
SAP SE	ユーロ	4.1
VISA INC-CLASS A SHARES	米ドル	4.1
ASML HLDG NV	ユーロ	4.0
INTUIT INC	米ドル	4.0
INTERCONTINENTAL EXCHANGE IN	米ドル	3.9
YUM! BRANDS INC	米ドル	3.9
組入銘柄数		31銘柄

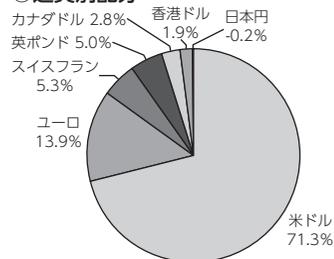
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用の明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前述の（1万口当りの費用の明細の項目の概要）をご参照ください。

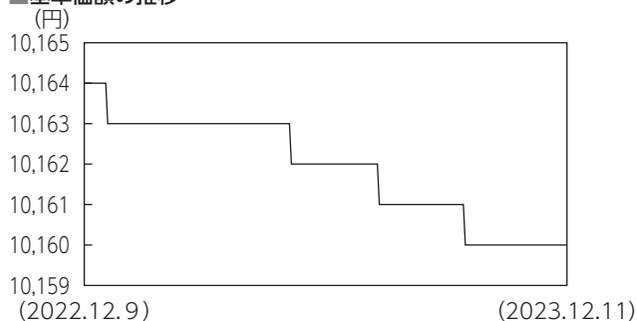
(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

◆ダイワ・マネー・マザーファンド（作成対象期間 2022年12月10日～2023年12月11日）

■基準価額の推移



■1万口当りの費用の明細

項	目	
売買委託手数料		-円
有価証券取引税		-
その他費用		-
合	計	-

■組入資産

2023年12月11日現在、有価証券等の組み入れはありません。

(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

Memo

Memo

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management